

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090200229		
法人名	社会福祉法人清光会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	高崎市箕郷町矢原52番地3 (電話)027-371-0804		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年12月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、去年に引き続き外出活動の充実につとめ、ドライブやお散歩、買い物など行っています。</li> <li>・開所当時から課題だった、地域とのつながりについては、ケアハウスとの交流行事の開催や介護相談や傾聴ボランティアなどの来園・園芸慰問などを通して交流をはかっています。今後は、地域の方を招待して食事会やおやつバイキングなどの行事を計画中です。また、入居者が個人で地域の敬老会などに参加しているように、グループホームで地域の行事に参加する事も行っていきます。</li> <li>・食事については、バイキング形式の昼食・おやつや季節感のある行事食(うなぎ・おはぎ・流しそうめんなど)など行い楽しんでいただいています。また、おまんじゅうやホットケーキなどのおやつ作りや、焼きそばや豚汁づくりなど職員と一緒に調理出来る機会の充実に努めています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>法人理念「明るく健康で豊かな老後」を基本に、地域との交流を積極的に図ることを加えた事業所独自の理念のもとに、着実に理念の実践に努めている。法人の運営するケアハウスとの交流も地域との交流として捉え、お茶会や餅つきなどの行事を企画・実施すると共に、カラオケ・フラダンスなどの4団体のボランティアの受入れを行なっている。今後は、地域の方を招待しての食事会やおやつバイキングなどの交流事業の実施を考えている。また、家族との関係については、面会時に利用者の状況を家族に伝え、情報を共有しながら、家族から意見や要望を聞くようにすると共に、バスハイク・花見・納涼祭の行事を企画・実施する際には、家族に呼びかけ参加していただくなど、家族の協力と連携を図りながら利用者の支援に努めている。今年4月には、認知症対応型通所介護を開始し、1日に3名の方の受入れを行なっている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎月1回の全体朝礼にて、理事長が運営方針・理念を話している。 ・職員会議で確認。	「明るく健康で豊かな老後」を基本にした法人の理念に、地域との交流を積極的に図ることを加えた事業所独自の理念をつくりあげている。毎月の朝礼で理事長が理念や運営方針について話をしたり、職員会議で理念を確認しあい、理念の共有を図りながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・運営推進会議には区長・長寿会・民生委員に出席していただいている。 ・法人内のケアハウスとの交流行事の開催。 ・納涼祭で地域住民との交流も行っている。 ・今後、地域の方を招いて昼食会など実施予定。	法人の運営するケアハウスとの交流も地域との交流として捉え、お茶会や餅つきなどの行事を企画・運営すると共に、カラオケ・フラダンスなどの4団体のボランティアの受入れを事業所独自に行っている。また、法人で行う納涼祭には、事業所も参加し、交流を行っている。今後は、地域の人々を招待しての食事会やおやつバイキングなど独自の交流を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・見学者など相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では2ヶ月に1度活動報告を行い、前回の会議より充実した活動報告が出来るように努力している。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、詳細な資料の配布と共に、事業所の運営や活動報告を丁寧に行い、出席者の理解を得ながら、意見や要望等を聞いている。また、地域に出ていくにはどうしたらよいかなど、事業所の課題を出席者に投げかけ、意見を聞き反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・支所や本所などに出かけた時にや運営推進会議の時など相談に乗っていただいている。	市の担当者とは、運営推進会議の時などに相談したり、支所や本所の窓口に出向き、デイサービスの立ち上げの問題について指導・助言等をいただくなど、連携を図りながらサービス向上に努めている。	玄関のドアについて、安全を図りながら、鍵をかけないケアの実践に取り組むことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束は行っていない。 ・玄関ドアは、日中自動ドアを手動にて対応。朝・夜間は、防犯上自動ドアの暗証番号で対応している。	法人内の研修や職員会議で身体拘束をしないケアの理解と共有を図りながら、実践に努めている。外出願望の利用者に対し、職員と一緒に散歩やスーパーなどに買い物に出かけ気分転換するなど対応している。日中の玄関のドアについては、外出願望の方がいることから、自動ドアを手動にして対応している。	今後も、玄関ドアの閉閉について、職員と検討を重ねながら鍵をかけないケアの実践に取り組むことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員は、それぞれ注意して業務にあつたている。 ・内部研修や日々の申し送りにて、言葉遣いなど確認。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居で1名・共用デイにて1名利用。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は、施設長・事務長・管理者が出席のもと、家族に説明を行い納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情窓口・ご意見箱を設け苦情処理。改善に努めている。	利用者とは、日頃接するなかで、意見や要望を聞くようにしている。家族とは、面会時等に利用者の状況を説明し、情報を共有しながら、意見や要望を聞いている。また、行事を企画・実施する際には、家族に呼びかけ参加を頂くようにし、家族との協力関係を築くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の職員会議を実施し、管理者と職員と意見交換を行っている。また、その意見を主任者会議などで報告している。 ・随時、意見交換を行い業務などに反映している。	毎月開催の職員会議や日頃のなかで、管理者は職員から意見・要望・提案を聞くようにしている。行事の企画・実施に当たっては、職員は積極的に意見や提案を行い、反映させている。法人の主任者会議には管理者が出席し、事業所の意見を反映させ、また、会議の結果を職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・能力査定を実施。 ・給与水準は県給与に準ずる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員会議でケース検討・自己対策など行っている。 ・内部研修や施設見学・外部研修などに参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内の他部署との意見交換や相談を行っている。 ・他施設の見学・情報交換を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者と多くコミュニケーションをとり、不安を軽減し安心して生活出来る用に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・出来るだけ、利用にあたり不安のないようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・施設見学時にグループホームの説明だけでなく他のサービスも同時に説明を行いどのサービスが必要か考えられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は利用者とふれあう時間を多く持ち一緒に献立を考えたり、一緒に料理や掃除・工作や行事をする事により、より良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の面会や外出など協力をお願いしている。 ・面会時には情報を共有出来るように状態報告を行っている。 ・家族も参加出来る行事(バスハイク・花見。納涼祭など)の参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会は、制限しないようにしている。 ・家族との交流をはかれるような行事などの声掛け。	本人の馴染みの人や場所について、入居時に家族から聞いたり、入居後利用者と接するなかで把握したりしている。家族との関係を大切にし、家族と一緒に楽しむ行事を企画し参加を呼びかけ、納涼祭には家族15人が参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・トラブルや仲間外れなどないように席替えなどトラブルを未然に防ぐように調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・月1回、介護相談員・傾聴ボランティアの来園により悩みなど相談にのっていただいている。	利用者にあった話し方で本心を聞くように努め、行きたい場所や食べたいものなど、希望を聞いている。また、意思表示がはっきりしない場合には、利用者の表情やしぐさを観察し、それらを職員で話し合ったり、家族と相談したりするなどして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に、面接調査・これまでのサービス利用者などに状態報告などをいただき把握している。また、入居後も随時、家族や本人などから情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ケース会議や申し送り・ケース記録などで状況を把握し職員で共有。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケース会議でこれまでの情報をもとに毎月モニタリングし介護計画の見直しなどを行っている。	本人や家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。職員はケアプランを把握し、日々のケアを行い、申し送り簿や処置記録に日々の暮らしの様子を記録している。モニタリングは職員会議で毎月実施し、短期目標・支援内容・評価の確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別のケース記録・日誌などで共有。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その都度、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カットのボランティアの利用。</li> <li>・介護相談員・傾聴ボランティアの月1回の訪問。</li> <li>・職員と一緒に買い物に出かけるなど行っている。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医には、家族または職員から直接状態報告を行い適切な診断・処方されるように援助している。</li> </ul>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医であるかかりつけ医は、月に1～2回訪問診察し、必要に応じ往診している。その他のかかりつけ医の受診は、家族が通院に同行している。受診前に家族に本人の状況を説明し、受診結果は家族から聞き記録するなど、適切な医療が受けられるように支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一法人内の看護職に相談・緊急時の協力を要請している。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時、介護サマリーなどでこちらでの情報を提供。入院後も家族と連絡を取りながら退院時の相談を行っている。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の重度化した時に、家族と相談しながら支援している。</li> <li>・入所時や見学时など重度化した時の選択肢についても説明をしている。</li> </ul>	<p>入居時、家族に事業所の方針について説明し、重症化した場合は、特別養護老人ホームや病院等へ移行することになる旨の説明をしている。状態変化時には、家族・医師・事業所で話し合い、適切な対応ができるよう支援している。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部研修にて確認。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回、法人全体で箕郷分署立ち会いにて避難訓練を実施。年1回、消化器訓練を実施。</li> <li>・独自に避難訓練を行っている。</li> </ul>	<p>年2回法人全体で、夜間想定も取り入れ、消防署立会いの下、火災訓練を実施している。また、事業所独自で毎月避難訓練を行なっている。地域との協力体制や法人の協力体制については、今後の検討課題としている。</p>	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護に努めている。</li> <li>・契約時、個人情報保護についてもサインを頂いている。</li> <li>・言葉遣いについては、会議や申し送りなどで確認。</li> </ul>	言葉かけについて、馴れ馴れしい言葉遣いや語気が強くないように、適宜管理者が職員に注意を喚起している。また、入浴時の個人個人のプライバシーの配慮・デイサービス利用者のプライバシー空間の確保など、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類販売会・バイキング形式のおやつ・昼食など洗濯出来るような行事を実施。</li> <li>・外出行事で外食するときは事前に注文をとり食べたいものを選んで頂いている。</li> <li>・日々、利用者と一緒に献立を考えている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々のコミュニケーションの中からおやつの希望を聞いて当日変更したり、散歩の希望などを聞き、柔軟に対応している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者に対して、カットのボランティアをお願いしてカット・髪染めを行っている。他の方は家族をお願いしている。</li> <li>・業者をお願いして衣類販売も実施。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイキング形式・外食・行事食など楽しめるような行事を行っている。</li> <li>・下膳や簡単な食事の準備のお手伝いなど協力していただいている。</li> <li>・おまんじゅう作り・ホットケーキ作りなどのおやつ作りや焼きそばや豚汁作りなど職員と一緒に作ったりしている。</li> </ul>	米以外の食材の買出し・献立や調理は、職員が交代で行なっている。雑誌を見ながら利用者から希望を聞き、献立に反映させている。バイキング形式・外食・行事食を取り入れたり、ホットケーキなどのおやつ作りを職員と一緒に言ったり、下膳や簡単な食事の準備のお手伝いをしていたり、利用者が食事を楽しむことのできる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人に合った食事形態や食器など工夫して行っている。</li> <li>・現在は、該当者はいないが、きざみ食やミキサー食も提供したこともある。</li> </ul>		
42		○口の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後の口腔ケアの声掛け・介助の実施。</li> <li>・週1回の義歯消毒の実施。</li> <li>・状態に応じ、家族に相談をして歯科通院・往診をお願いしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別で定時の声掛け・トイレ誘導・トイレ介助を行いトイレでの排泄を行っている。</li> <li>・布パンツ・紙パンツ・尿取りパット使用・夜間ポータブルトイレ使用などその人に合わせた排泄支援を実施。</li> </ul>	定期的な声かけトイレ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は、ポータブルトイレ使用など、その人に合わせた排泄支援をしている。また、便秘気味の利用者には、排便チェックし、おやつに乳酸飲料を摂取するなど、排便がスムーズになるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の工夫・マッサージ・内服の調整などを行い排便コントロールを行っている。</li> <li>・便秘気味の方は排便チェックを実施。</li> <li>・おやつに、ヤクルト・ヨーグルト・牛乳などを購入し摂取している。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面などで、時間や曜日などは決まっているが、出来るだけ入浴出来るように支援している。</li> </ul>	入浴は月・木、火・金、水・土をセットに、週2回を基本にしている。入浴を嫌がる利用者には、タイミングを見計らって誘導するなど、工夫しながら対応している。また、季節の柚子湯や入浴剤を使用し、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室の室温・寝具や衣類の調整、医師との相談などを行い実施。</li> <li>・夜間帯に不安の訴えなどは、会話することにより不安を軽減をして休んでいただいている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通院時、家族からの報告や病院からのお薬説明書などからの情報を職員で共有している。</li> <li>・通院に家族に普段の様子を報告したり、直接に医師に相談をして症状に応じて内服の変更をしていただいている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事・レクリエーションを実施。</li> <li>・個別で工作や園芸活動・習字などを実施。</li> <li>・出来ることを手伝っていただくと言うことでホールの掃除や洗濯物たたみや調理など手伝っていただいている。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族による、外出支援はお願いしている。</li> <li>・花見・公園などへのドライブなど行っている。家族に声をかけて、一緒に参加できる行事も企画し参加いただいている。</li> <li>・個別で散歩や買い物・庭での活動なども実施。</li> </ul>	天気の良い時は、近所を散歩したり、ベランダで休んだり、プランターの植物の水やりをしたりしている。季節の花見・外食行事などを企画・立案し、家族にも参加を呼びかけ実施している。また、個別に散歩や買い物に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理出来る方に対しては、小遣い程度持参している。その中から、カット代など支払う方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族に用のある方は職員が間に入り電話をかけお話し出来るように援助している。 ・電話の後、職員が家族と変わり内容の確認を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールには、植物・壁面や置物を季節ごとに替えて季節感を出している。	リビング兼食堂は、天井が高く明るく、廊下等を含め広い空間となっている。コーナーにはソファが置かれ、寛げるようになっている。壁には、行事等の写真・手作りカレンダー・干支や季節感のある利用者の合作の貼り絵などが飾られ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにソファを置いたり、ベランダに椅子やベンチを置きつつろぎの場所として使用。 ・プランターなどで花を育て面倒をみていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、使い慣れた家具などを持参していただいている。	居室には、使い慣れた整理ダンス・鏡台・時計などが配置され、家族の写真等が飾られ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホールに大きめの日めくりカレンダー・ホワイトボードに本日の献立を掲示。トイレや風呂などわかりやすく看板を設置。 ・ホールなど季節が解るよう造花などで飾っている。		